

3年次前期・必修

2単位・30時間

【概要・目標】

小児看護の役割を理解し、様々な健康問題や障がいのある子どもと家族に対して、エビデンスに基づき、子どものQOLやWell-Being向上のための看護実践方法を修得する。

【授業内容のスケジュール】

- 1-2. 症状別看護
 3. 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響
 4. 病棟での子どもの安全を守る
 5. 外来(救急外来)における子どもの看護
 6. 子どもの不慮の事故・児童虐待 「何かおかしい」をキャッチする
 7. 手術をする子どもの看護／小児外科・小児循環器外科の特徴
 8. 長期間療法が必要な子どもの看護／重症障害児の看護(医療的ケアを含む)
 9. ハイリスク新生児(先天性疾患含む)の看護
 10. 子どもの死の概念の発達／子どもがよりよく生きるために
(治療・ケアをめぐる意思決定支援)
 11. 事例からの看護過程の展開
 - 12-15 子どもへの看護技術演習
 - ・嫌がる子どものバイタル測定
 - ・嫌がる子どもの内服支援
 - ・侵襲を伴う検査：腰痛穿刺・骨髄穿刺時の看護
 - ・採尿・静脈内点滴時の看護
 - ・救命処置／アナフラキシーショック時の看護(エピペン)
-

【評価】

試験 60% 講義参加(専門職を目指す学生としての態度) 10%、課題レポート 30%

【教科書】

二宮啓子編集：小児看護概論「子どもと家族に寄り添う援助」改訂版第3版 南江堂

二宮啓子編集：小児看護技術「子どもと家族の力を引き出す技」改訂版第3版 南江堂

【推薦参考図書】

必要であれば講義の中で提示する。

【その他】